

つながる力～コミュニケーションを大切にしていますか？～

夏休みが終わり、学校に子どもたちが帰ってきました。夏休み前より日に焼けて元気な挨拶をしてくれる子、夏休みの宿題が入った大きな袋を持ち「おはようございます！」と笑顔で挨拶をしてくれる子など、子どもたちから早速たくさんの元気をもらいました。

さて、突然ですが「アクティブラーニング」という言葉を聞かれたことがおありでしょうか。「アクティブラーニング」とは、簡単に言えば学ぶ者が能動的に学ぶ学習方法のことです。その一例として、ディスカッション、ディベート、グループワークなどが挙げられます。これらの学習方法の特徴は、人間関係が大切であり、人と「つながる力」が必要なのです。実は、小学校ではこれまででも授業の中で取り入れてきています。では、なぜ今このような学習方法が注目されているのでしょうか。これは、ある大学の先生から聞いた話ですが、大学の学生食堂には二人席の間に衝立を立てて遮り、前の人を見えなくした形の「1人席（ぼっち席）」が設けられているそうです。その理由は、1つのテーブルに1人が座って食事をすると、誰もそのテーブルには座らないことが多く、非常に回転が悪くなってしまうからだそうです。また、学生にグループで1つのレポートを作成するよう指示しても、それができない学生もいるそうです。このような人間関係の希薄さが深刻な現状も、一つの原因かもしれません。いずれにしても、「つながる力（人間関係力）」は、すさまじい速さで変化し続けているこの社会において、自分で自分の道を切り拓くために大切なものだとえるでしょう。

また、全国学力・学習状況調査の結果から、家で学校の話を「している」児童ほど、国語、算数A・Bともに平均正答率が高くなる傾向が見られるという話もあります。これらの児童は家族とつながりをもち、親に話をすることが一日の（学習の）振り返りをしていることになっているのでしょうか。そして、そこで記憶が再生されることにより、結果として学力の向上につながっていると考えられるのではないでしょうか。

秋は、学校でも地域でも様々な行事が行われます。そのような機会に家族で積極的に参加していただき、家族のつながりを大切にしていただきたいと思います。保護者の皆さん、家庭でのコミュニケーションのコツ、それは、『「つながり」を大切にし、親が話しすぎないようにすること』だそうです。是非、お試しください。

校長 今村 ひろみ